

1. レジ袋削減への取組の概要

- ・ 平成19年9月に2店舗、同年11月に2店舗の計4店舗で開始したモデル事業を経て、平成20年2月にとよたエコライフ倶楽部、34事業者69店舗と豊田市が「レジ袋削減に関する協定」を締結し、平成20年4月1日からレジ袋無料配布中止を本格実施した。
- ・ また、同年12月1日には新たにドラッグストア等10事業者28店舗と協定を締結し、レジ袋無料配布中止店舗は44事業者97店舗に拡大した。現在、95店舗でレジ袋の無料配布を中止している。
- ・ 平成20年度は、毎月90%近いレジ袋辞退率であり、当初目的を達成した。その後も90%近い辞退率を維持している。
- ・ レジ袋削減に関する協定内容は、マイバッグ持参の呼びかけ、レジ袋無料配布の中止、マイバッグ持参率70%以上の達成、有償レジ袋収益金の社会還元、貸し出し袋の提供である。

2. 協定参加者の増加要因

- ・ とよたエコライフ倶楽部エコシール制度加盟店255店舗及び広報で呼びかけ、可能な限り多くの店舗の参加を促した。また、さらなる拡大をめざし、ドラッグストア等と協議を行ったことが協定参加者の増加に寄与したと考える。

3. レジ袋有料化を浸透させることが出来た要因

- ・ 豊田市においては、1999年3月からマイバッグ持参運動を実施しており、2000年6月からは、レジ袋を断ると5円相当のシールがもらえ、それを20枚集めると100円として利用できるエコシール制度を2009年5月まで実施した。
- ・ これらの啓発や制度により既にマイバッグ持参が定着しており、レジ袋の無料配布を中止しても大きな混乱は無かった。また、市民、事業者、行政が協力して実施することが大切であり、特に大手のスーパー等の事業者が一斉に無料配布を中止できたことが成功の大きな要因と考える。仮に、大手スーパーで参加しない事業者がいた場合、その店舗に来店客が流れる心配があり、その他の事業者も無料配布中止ができなかったと考える。

4. レジ袋削減対策が3R全般の推進につながっていると感じること

- ・ 平成24年度11月30日時点で、95店舗でレジ袋の無料配布を中止しており、辞退率が約90%となっていることから、ごみの削減にも繋がっていると考えられる。